

e-ビーフNEWS 北の牧場から

April 2016

十勝の雪解け

3月も末、日も早く昇りやと十勝も氷点下になる事が少なくなりました。日中で10℃超しとポカポカ陽気。あれだけあった雪が見る見るなくなり、先日測候所から積雪ゼロと発表されました。そうは言っても道路際や建物陰には、まだうす高く埃にまぎれて残っていますが…雪解けの後は、いろいろな物が残されています。エゾリスが食べた松笠やクルミ・ドングリの実が、松の根元に山となっているのを発見します。こんなにも冬の間に食べたんだと感心しますね。

鳥たちが騒がしいです。シジュウカラ、ゴジュウカラ、スズメの小鳥たちの集団が、縦横無尽に飛び交っています。川の水は雪解け時に、白く濁り(通称 ユキシロ)やと透明度が増してくるとアメマスやサクラマスの集団が川の上流を目指して上ってきます。東京では桜満開の話が出ていますが、こちらは1ヵ月遅れ。4月末の予想です。やと陽のあたる堤防南斜面にフキノトウがはじめてました。雪解け後の茶色の世界から新緑の世界に変わりつつあります。厳寒の雪の下でも、生き物が芽を膨らましています。



活動のお知らせ

2/22(月) 帯広 十勝農協連ビル 平成27年度 十勝畜産技術セミナー

3/19(土) 札幌全日空ホテル 主催:一般社団ミート・イメージジャパン 畜大・樽大
シンポジウム「国際化における肉用牛肉質改良の展望」-高付加価値の肉牛生産に向けて3/23(水) 旭川道北経済センタービル 主催:全国肉牛事業協同組合
和牛・F1繁殖肥育セミナー

新年度補助事業への取組 ・JRA畜産振興事業「赤身主体の肉専用種増殖事業」が不採択3/25通知

・28年度エコフィード増産対策事業検討/期間に合わず 再度、新規補助事業の可能性を模索中

NEWSばか読み

- 冷凍食品各社 冷凍チャーハン製造加熱 原料米にこだわり
2/27:寒いやら暑いやら
- イオン 有機野菜売り場を拡張 他社との差別化強化 2/27:本気で売る気
- 米国産ウィスキー パーボン人気復活で樽不足深刻
2/28:カーボーイの酒供給不安
- 鳥取畜産試験場 和牛の赤身のおいしさ香りで銘柄化 測定器開発
2/29:サシでなく
- 全国家畜市場 和牛子牛減少でセリ日を1割削減
3/1:相場も1割減とはならず
- 十勝家畜市場 農耕馬高騰続く1頭123万円超す 3/1:畜産すべて高し
- 長野県 機能性成分アントシアニン含む飼料用トウモロコシ開発
3/1:移行するかな
- 全農 和牛増殖へ受精卵の供給体制を強化 3/2:目指す資質の方向性が課題か
- スーパー各社 高齢者・共稼ぎ向けの総菜増産 3/2:お世話になるのかな
- 酪農学園 医療メーカー大手と葉草入り飼料開発 3/2:牛にも漢方か
- 全農 シンガポールに輸出用物流拠点構築 3/3:東南アジア攻める姿勢が明確
- 厚生労働省 独居高齢者の生活保護帯が最多に
3/3:年寄りも貧富の差拡大か
- 2月和牛子牛相場 7か月連続高相場更新 去勢82万円3/3:肥育値段?
- ブラジルGD3.8%減6年ぶりにマイナス雇用不安・インフレ
3/4:オリンピック大丈夫
- クボタ 新潟に米粉パン工場建設 3/4:逆6次化進む
- 中国リスクで企業倒産が急増 3/5:経営にはリスヘッジが課題

- 吉野家HD 47%減益 暖冬で鍋需要苦戦 3/5:天気には逆らえず
- 米国 16/17年トウモロコシ作柄 4年ぶりに増加の見通し 3/5:相場下げ期待
- レトルト業界 野菜を使った離乳食を販売強化 3/8:ベジタリアン哺育育成
- 1月マルキン全品種に発動なし 4ヶ月連続 3/9:高相場演出
- インド 原発事故由来の日本産食品の輸入規制解除
3/9:外国は食品について慎重だね
- 農林水産省 非効率農業生産体制にメス 飼料メーカーに再編
3/9:農業は非効率?
- アイス会社相次ぐ値上げ ガリガリ君25年ぶりに 3/11:おまもか
- 道総研 北海道産100%原料PJ立ち上げ ぞら焼き開発 3/14:興味津津
- 環境省 廃棄カプセル防止で監視強化 3/15:マニフェストのほころび修復が先
- カミチク 官民ファンドを使い輸出向けと畜場建設
3/16:地方畜産コンビナート化に
- 農林水産省 飼料米増収コンテストを開催予定 3/16:米の可能性に期待
- よつ葉乳業 非LL牛乳を試験輸出 3/18:味の評価を得られるか
- 農林水産省 酒米振興し日本酒輸出増へ 3/18:米生産の多様化推進
- タイ向け牛肉輸出条件緩和 第3国への販売可能に 3/19:大陸へ門戸開放
- 政府 コンビニ海外店舗利用し食品輸出拡大へ
3/20:末端販売網の課題解決か
- ふるさと納税の返礼品にコメの需要拡大
3/22:地方にとって新たなニーズの発掘
- 韓国で口蹄疫流行の兆し 3/23:防疫体制に気の緩みはないか
- 1月農産物輸出減 ホタテの不漁が大きく影響
3/23:ホタテのシェアが大きく
- JA岐阜 地元企業と連携し社員の福利厚生に放棄地利用再生 3/24:いいね
- 米国ロックフェラー財団 化石燃料への投資中止 3/25:流れが生まれる

東京直近NEWS (3/29 Shi-REPORT)

ホルス 3月相場、販売不振の底は脱した印象も期末決算を迎え在庫縮小の方向から枝肉相場の上昇は無く@1050前後での落ち着いた状況。販売状況は底を脱したといいつつも、月後半から学校給食も休みに入り、代替えとして外食関係からは冷凍商材の問合せや、量販からは季節柄、焼き材やスライス品の問合せが増加し始めている。但し、量販関係は慢性的な高値から消費不振は回復しきれておらず、特にホルス・交雑は輸入牛肉へのシフトも見受けられる。今後については、歓送迎会や花見などイベントが続くGWとつながっていくため、切落しから焼き材フェースの拡大と期待あるも、逆に上位部位ロース関係が弱まる事が懸念。

経産牛 3月枝肉相場は大きな変動無く推移するも、月末につれて若干

下げ傾向に転じる。道内の生体市場は相変わらず高値安定の傾向で変わらず引合い強い状況。集荷頭数も少ないことが、相場に顕著に影響している。枝肉は高値安定傾向にも関わらず、部分肉の販売状況は決算期に向けて、ホルス品種の価格訴求在庫が出回っているとの情報多々。その影響もあり、特に冷凍流通の赤身モモ部位の荷余り感が強くなりつつある。4月以降、枝肉相場が大きく下げる要因は少ない環境下で、販売単価は下げ傾向があり不安。挽材についても、大手メーカーは在庫十分との情報、同時に輸入牛肉が下げ傾向から国産牛の挽材原料は3月年度末以降も放出可能性大。唯一経産牛の脂もの白上がりや和経産の引合い問合せは多く、肥育牛の相場が高値安定のため代替需要として増えている。

左先生の畜産学研究NEWS

二極化は米国の大統領選予備選でのリベラル民主と保守共和の躍進ではなく、安全・安心の日本食材の生産を担うわが国の持続的な農業のことで、日本国民への食糧供給と世界の富裕層を狙ったわが国の農業組織改革をTPPの成否に関わりなく追求して欲しいと、3月26日北海道新幹線の開業で観光資源・企業進出開拓がJRの役割に加わったことを機に思いました。e-びーふNews28号の学術情報は下記の通りです。連載記事、その他これまでに入手した情報は順次解説して行きます。

1.2016.1.2.畜産技術(1) 和牛の知的財産をめぐる情勢と課題1. 和牛の知的財産取得の意義について(国枝哲夫、岡山大)

平成の開国といわれるTPPですが米国・カナダ・豪州・NZおよび英国ですでに和牛生産者協会と登録制度が確立、和牛対Wagyuの育種改良の国際競争は始まっています。海外の和牛集団による改良では日本でも用いられてきたBLUP法育種価等を駆使しており、わが国固有の生産形質遺伝子が海外で同定されて日本の生産者が特許料を支払う事態になる前に日本の和牛生産に関わる知的財産権について国際競争力強化の戦略をしっかりと構築することが重要です。2-4.は次号に回します。

2.2016.2.22.平成27年度 十勝畜産技術セミナー(道総研畜試他:農協連ビル会議室)

道総研畜試他が新技術や実証試験・調査結果の紹介を目的に畜産基地十勝で毎年開催しています。肉牛や自給飼料に関連する内容は以下の通りです。

1) 黒毛和種および交雑種去勢牛の育成・肥育一貫飼養における牧草・とうもろこしサイレージ給与技術(糟谷広高、道総研畜試)

JBとF1の育成・肥育一貫農家での牧草(GS)・とうもろこしサイレージ(CS)給与による牛肉生産を想定して VtA効果などを検証しました。育成期の濃厚飼料は2.5%の節減で肥育期のCSは食い止まり防止効果があり、CS前期

65%、後期35%でTDN自給率40%を達成でき、枝肉のBFSは3-4で血中VtAは60IUを維持し、GS・CSによる一貫肥育が可能と思われました。

2) 豚および鶏に対するとうもろこし子実主体サイレージの飼料特性(甲田洋子、道総研畜試)

豚・鶏の話題が環り協のNewsには意外ですが、以前にない発想の原点はとうもろこしの子実が濃厚飼料の位置づけであるためです。この子実主体サイレージは雌種の包皮のみを取ったコーンコブミックス(CCM)と芯も除いたハイモイスチャーシェル土コーン(HMSC)をサイレージ調製したものでDM%(68.71)CP%(共)9.0)で平均粒度0.7 - 0.9mmでカビ防止の密封に注意すれば豚・鶏の飼料として活用が可能と思われました。

3.2016.3.19 研究成果発表合同シンポジウム(一般社団ミート・イメージジャパン(MIJ)ほか、札幌全日空ホテル)「国際化時代における肉用牛肉質改善の展望—高付加価値の肉牛生産に向けて」

基調講演1. わが国における肉用牛肉質改良の展望 (菊池淳志、農水省)

わが国の肉用牛は黒毛和種に特化されてきたが、一般消費者の嗜好が変化しており、改良増殖目標は和牛の近郊係数が7.7%に達していることから、年1産と共に適度な脂肪交雑の牛肉作りに変わっています。

2. わが国の牛肉輸出の現状と今後に向けて(菱沼 毅、中畜)

牛肉の輸出は2016年に1800t、113億円を中間目標とし2020年まで+22%を見込み、この取り組みは地域というより全国統一格付けでオールジャパンの体制が必要で和牛統一マークの下多様なプロモーション活動が展開されています。

研究報告1. 国産和牛肉の海外展開可能性について(口田圭吾、帯畜大)

日本の牛枝肉判定にミラー型牛枝肉撮影装置を用いると新細かさ指数による小ざしなどの格付け精度が豪州より高く、国産和牛の優位性が活かされやす。

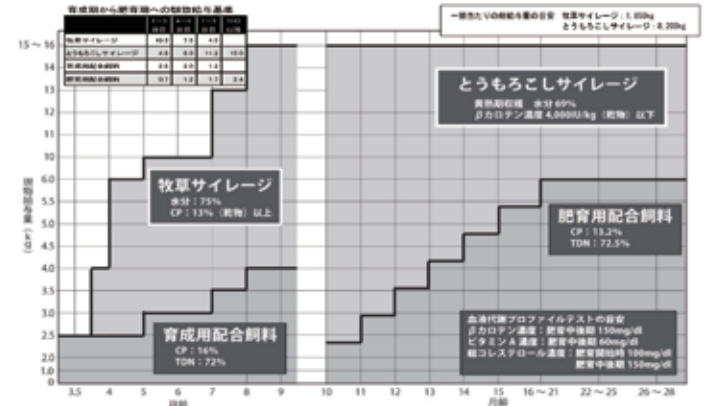
道総研 畜産試験場NEWS

「平成27年度 成績概要書」

平成27年度 成績概要書

- 研究課題名と成果の要点
 - 研究課題名: 黒毛和種および交雑種去勢牛の育成・肥育一貫飼養における牧草・とうもろこしサイレージ給与技術
 - キーワード: 黒毛和種去勢牛、交雑種去勢牛、牧草サイレージ、とうもろこしサイレージ、育成・肥育期
 - 成果の要約: 黒毛和種および交雑種去勢牛において慣行飼養と遜色のない牛肉生産が可能で、育成・肥育期の牧草サイレージ・とうもろこしサイレージ給与技術を確立し、懸念されていたビタミンAコントロールと脂肪色に問題が見られないことを示した。飼料費は約8万円節減でき、TDN自給率は30ポイント向上できる。
- 研究機関名
 - 担当機関・部・グループ・担当者名: 畜試・家畜研究部・肉牛6 主査 糟谷広高、技術支援G
 - 共同研究機関(協力機関):
- 研究期間: 平成26~27年度 (2013~2015年度)
- 研究概要
 - 研究の背景
 - 牧草サイレージ(GS)およびとうもろこしサイレージ(CS)は乾草や稲ワラ・表層より栄養価が高く、飼料自給率向上と飼料費削減が期待できる。育成・肥育一貫飼養では育成期にGS給与、肥育期にCS給与となるが、GSのβカロテン含量が高いことから、ビタミンAコントロールおよび枝肉脂肪色への影響が懸念されている。
 - 研究の目的
 - 肉用牛におけるGS・CS給与が肥育、ビタミンA代謝および肥育成績に及ぼす影響を明らかにし、サイレージを利用した育成・肥育一貫飼養を確立する。
- 研究内容
 - 黒毛和種去勢牛の育成・肥育期におけるサイレージ分給給与技術の確立(試験1)
 - ねらい: 黒毛和種去勢牛における育成期のGS給与および肥育期のCS給与が飼料摂取量や発育、産肉成績に及ぼす影響を明らかにする。
 - 試験項目等: 対照区: 8頭 育成期(切断牧草+育成用配合飼料) 肥育期(乾草+表層+肥育用配合飼料) 試験区: 8頭 育成前期(細切GS+育成用配合飼料+苜蓿) とうもろこし 育成後期(細切GS+IE+苜蓿+とうもろこし大豆粕) 肥育期(CS+肥育用配合飼料)
 - 交雑種去勢牛の育成・肥育期におけるサイレージ主体TMR給与効果の検証(試験2)
 - ねらい: 交雑種牛の大規模群管理飼養において、GS・CS主体TMR給与が飼料摂取量や発育、産肉成績に及ぼす影響を明らかにする。
 - 試験項目等: 1群10頭の群管理飼養 対照区: 12群20頭(粗飼料・濃厚飼料分給給与) 試験区: 12群20頭(GS・CS主体TMR給与)
 - 牧草・とうもろこしサイレージ導入による飼料自給率向上および飼料費削減効果(総合考察)
 - ねらい: 生産現場におけるサイレージ導入目的およびサイレージ導入による飼料自給率向上および飼料費削減効果を示す。
 - 肉用牛の育成・肥育一貫飼養における牧草・とうもろこしサイレージ給与マニュアルを作成する。
 - ねらい: 牧草サイレージ・とうもろこしサイレージ給与する際のマニュアルを作成する。
- 成果概要
 - GS・CS給与による牧草飼料量の低下はみられず、慣行飼養に対して濃厚飼料を1.4t削減可能であった(表1)。育成・肥育期間中のTMR摂取量は慣行飼養と同等であり、発育・増体も良好に推移し、慣行飼養と同等の肥育成績が示された(表1)。またGS・CS給与による濃厚飼料削減は第一胃内発酵の安定化、群働の負荷軽減に寄与することが示された。血中βカロテン濃度は育成期終了時に430μg/dlまで上昇したが、肥育期に速やかに低下し、肥育開始1ヵ月後にはGS給与の影響がなくなった。また、血中ビタミンA濃度は18ヵ月齢で60IU/dlまで低下し、その後60IU/dl前後で推移した。脂肪脂肪色の黄色度を示すb値は全頭10以下であり、BFS No.は3および4と判定された。
 - CS主体TMR給与では、肥育前期の粗飼料割合を26%から64%、肥育後期では15%から40%まで高めることが可能であった。血中βカロテン濃度は育成期終了時の8ヵ月齢で607μg/dlまで上昇したが、肥育開始後に急激に減少し、GS給与の影響はみられなかった。血中ビタミンA濃度は19ヵ月齢で60IU/dlまで低下し、慣行飼養と同等の推移を示した。発育・増体も良好に推移し、慣行飼養と同等の肥育成績が得られた(表2)。
 - サイレージ導入農家は、飼料費削減と食肉防止を目的としていた。試験1・2の成績からの試算では、GS・CS導入により30ポイントのTDN自給率向上と1頭当たり8万円の飼料費の削減が見込まれた(表1、表2)。
 - 試験1の成績から黒毛和種去勢牛の育成・肥育一貫飼養におけるGS・CS分給給与基準(図1)、試験2の成績から交雑種去勢牛の育成・肥育一貫飼養におけるGS・CS主体TMRの設計設計(図2)を作成した。また、両試験の結果から肥育期に給与するCSは高熟期に収穫されたものを用いたことによりビタミンAコントロールおよび枝肉脂肪色に問題がみられなかったと考えられた。血液代謝プロファイルテストにおける肥育期における血中βカロテン濃度、ビタミンA濃度およびコレステロール濃度の目安を示した。

	対照区	試験区
粗飼料摂取量(kg)	1,125	2,380
濃厚飼料摂取量(kg)	4,458	3,013
TDN 摂取量(kg)	4,335	4,541
育成開始体重(kg)	130	125
肥育開始体重(kg)	288	294
肥育終了体重(kg)	751	778
体高(mm)	469	481
胸囲長径(mm)	62.9	61.0
BMS No.	7.1	6.6
BFS No.	3.0*	3.0*
TDN 自給率(%)	14.4	44.2
飼料費(万円)	5.3	4.4
肥育期	30.0	23.3
	対照区	試験区
粗飼料割合(%)	26	38
育成期	26	64
肥育前期	26	34
肥育後期	15	40
育成開始体重(kg)	203	206
肥育終了体重(kg)	836	828
体高(mm)	517.5	503.8
胸囲長径(mm)	51.2	48.5
BMS No.	3.9	3.5
BFS No.	3.0	3.0
TDN 自給率(%)	12.4	41.8
飼料費(万円)	4.0	3.3
育成期	4.0	3.3
肥育期	32.4	24.5



- 図2 黒毛和種去勢牛の育成・肥育一貫飼養における牧草・とうもろこしサイレージ分給給与基準
- 成果の活用面と留意点
 - 育成・肥育一貫飼養農場で牧草・とうもろこしサイレージを用いる場合に活用する。
 - とうもろこしサイレージは高熟期に収穫したものを用いる。
 - 採られた発表とその対応
8. 研究成果の発表等
- 学会発表: 日本畜産学会第118回大会(H26.3) 第121回大会(H26.3)